



青き楓

島高だより
平成22年11月号
(通巻第56号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「手をかける」のが学校や親の仕事



校長 辰田幸敏

私は「ふれあい」のないところに教育は存立しないと考えている。我が身を振り返ってみて思うが、幼稚園（保育園）や小中学校時代と長い自己確立期での親や教師の影響力はきわめて大きいと言える。子どものその後の人生観に大きな影響を与えらると思う。

だからこそ、自立を損ねる過保護・過干渉などの“手かけ”は極力避けなければならないが、“手をかける”ことは絶対必要だと思う。なかにはもちろん“手のやける”子どももいる。しかし、一生懸命取り組めば、魂を揺さぶることは可能だ。最後は心は通じるものである。手のやけた生徒ほど、卒業して何十年経っても何かと気遣い、よく連絡したり、遊びにきてくれる。ありがたいことである。

私は基本的には、手をかけ、細かいヒダの部分まで手をやいて育て上げていくことが、親や教師の仕事ではないかと考える。教師生活も残り少なくなってきたが、私自身は最後までそうありたいと思っている。



12月の主な行事予定



1日(水)	1・2年期末考査3日目(～2日)	18日(土)	1・2年県下一斉実力テスト
2日(木)	2年修学旅行結団式		3年土曜講座
3日(金)	東大金曜講座 1年理数科地学セミナー	20日(月)	生徒会各種委員会 PTA常任委員会
4日(土)	3年対外マーク模試・記述模試(～5日)	22日(水)	1年理数科地学セミナー
	1・2年土曜講座・小論文模試	24日(金)	終了式
6日(月)	2年修学旅行(～10日)		3年生激励会
8日(水)	1年小高連携地域清掃ボランティア・ 保育園実習・施設訪問	25日(土)	冬季補習(全学年)
	3年三者面談(～16日)	26日(日)	冬季補習(3年)
10日(金)	1年理数科地学セミナー巡検	27日(月)	授業設定日(～28日)
11日(土)	1・3年土曜講座	29日(水)	3年センター試験プレテスト (～30日)
13日(月)	歳末助け合い校内募金(～17日)		
14日(火)	歳末助け合い街頭募金(～15日)		
17日(金)	1・2年三者面談(～24日) 東大金曜講座 2年理数科数学セミナー		



人権教育

【研修部 坂本 康】

11月10日(水) LHRの時間に全生徒が体育館に集まり人権教育を実施しました。今年度は、「北朝鮮による日本人拉致問題」についてのアニメ映画『めぐみ』を上映鑑賞しました。横田めぐみさんが行方不明になって33年、北朝鮮で生きているという情報もたらされて13年が経過しますが、未だに拉致問題は解決の兆しが見えません。事件の風化が懸念される状況の中、生徒たちは食い入るように映画に見入っていました。

＜生徒の感想より＞

○拉致問題は前からニュースを通して知っているつもりでしたが、思ったよりもずっと酷くて、もっと私たちが真剣に考えていかなければならない問題なのだと感じました。私にできることは限られていると思いますが、まずはもう少し拉致問題について関心をもっていきたいと思います。

(1年女子)

○私が気になったのは、拉致問題が明らかになっても社会全体が動かなかったことです。拉致被害者の人権が大きく侵害されているとなれば、もっと行動すべきではないでしょうか。少しでも早くこの問題を解決し、被害者をこれから出さないためにも、人権について正しい理解が社会全体に広まるといいなと思います。(2年女子)

○拉致についてはほとんど忘れてしまいましたが、映画を見て強く心に訴えかけられるものがありました。当事者の家族からすれば、人権の領域を超えて「殺人」と変わらないものではないかと思いました。そう思うと、日々の生活というのは普通であっても、それがいかにありがたいものであるかを感じました。(3年男子)

「高校生さわやか運動」強調月間《挨拶運動》

生徒会指導部 谷口 英次

11月8日(月)から12日(金)まで、早朝の挨拶運動を実施しました。これは県内のすべての高校で取り組む「高校生さわやか運動」の一環として行われるもので、本校では挨拶運動のほかに、バス乗車のマナーアップ運動や、ゴミの分別活動を現在実施中です。

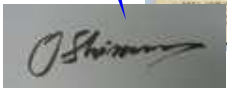
1・2年生各クラスの規律委員、正副議長および生徒会常任委員で当番を決め、朝7時15分から7時30分まで、正門・西門・南門に分かれて立ち、本校生徒や通学中の小・中学生、地域の方などに挨拶を行いました。

図書寄贈

2008年にノーベル化学賞を受賞した下村脩さんの著書「クラゲに学ぶ」が寄贈されました。



直筆のサイン



授業公開・相互授業参観

【研修部 尾崎 郁子】

11月8日(金)～12日(金)に渡り、第2回の授業公開を行いました。今回は、第1回よりも多くの保護者の方や半島内の小・中学校、高等学校関係者の方が来校され、生徒たちが生き生き学んでいる様子を見て頂けたものと思います。

また、11月8日(金)～19日(金)を、自由に職員同士で授業を見学できる相互授業参観週間に設定し、全教師が自分の教科、他教科の授業を少なくとも1回ずつ見学する職員研修を行いました。自教科の授業力向上は勿論、他教科が行うアイデア豊かな授業に多くの教師が刺激を受けていたようです。



歴史の重みを感じ
新しい島高創りを決意

創立110周年記念式典

「21世紀の旗手」として、大きく羽ばたくことを決意する日

本校は1900年に島原中学校として発足し、今年で創立110周年を迎えました。去る10月30日(土)、記念式典・記念演奏会が島原文化会館で行われました。式辞の中で、辰田幸敏校長先生から生徒たちに次のようなメッセージが送られました。



「苦しさや辛さにじっと耐えながら、校是『文武両道』の実践に真正面から取り組んでいる青き楓たちに「21世紀の旗手」としての力強さ、頼もしさを感じます。私は君たちに「21世紀の旗手」として郷土の発展に貢献し、国際社会で活躍する人材になって欲しいと大きな期待を寄せています。この記念すべき110周年を、島高生一人ひとりが旗手として世界に目を向け、大きく羽ばたくことを決意する日であってほしい。」

伝統を受け継ぎ、後輩につなげることに使命感と喜びがある！



生徒会常任委員長・谷口 隼輔くんの「喜びのこぼし」

「島原高校と言えば、伝統を重んじる学校というイメージがあります。その中において伝統を受け継ぎ、後輩につなげることは、時として重責を感じることもあります。しかし、それ以上にバトンを渡せる使命感と喜びがあるのも確かであり、島高生としての私を支える誇りでもあります。」

〔記念式典に参加した生徒の感想〕

○島原高校の110年という歴史の重さがこの式典を通して伝わってきました。今までに島原高校を卒業してこられた卒業生が現在の島高生を見て誇りに思っているということを知ってうれしかったです。(1年女子)

○これからもこの誇り高い島高の伝統、島高魂を絶やさぬようにしていくことが、今の島高生にできる最善のことだと思ふ。目の前にあることを全力でやりきっていく、それが島高生のあるべき姿だと思ふ。(1年男子)

○110年という長い年月を経て今日の島高があるのは、当たり前のことではなく、偶然でもなく、多くの方々の支えがあり、多くの先輩方が伝統を守ってこられたからこそなのだと感じた。(2年女子)

○110周年を迎えた節目の年に、自分が島高生であることを幸せに思うとともに、地域社会からの期待が大きいことを改めて感じさせられ、自分たちがこれからの島高を作っていくかなければならないのだという責任を感じました。(2年男子)

○島高であるから経験できること、島高生であることを誇りに思い、島高の伝統をつないでいきたいと思ふ。(3年女子)

○これから大学受験、卒業と先の見通せない未来へ一歩一歩踏み出していきますが、島高の三年間で育んできた「島高魂」を胸に、旗手として先導し、リーダーシップがとれるような人になりたいと思ふ。(3年男子)

記念演奏会



(OMURA 室内合奏団と合唱部)



中学校保護者対象高校説明会(3地区) 中学校教員対象入試説明会 学習塾関係者と高校との懇談会



【教務部 相川 保彦】

11月上旬から中旬にかけて、上記の説明会や懇談会が開かれ、保護者対象説明会には200名弱の保護者に集まっていただきました。

高校側から、校長挨拶、学校現況説明、生徒募集要項説明を行い、その後、質疑応答、意見交換を行いました。本校の部活動の実績や学力の伸び率には驚かれていたようです。質疑応答では、理数科と理系コースの違い、高校に必要な諸納金、進路状況、高校入試についてなどの質問の他に、島高に対する期待、要望等について多くの方々の意見をいただきました。今後の教育活動に活かしてまいります。ありがとうございました。

※入試についてのお問い合わせは、教頭(鶴田・浦)または教務(相川)まで

部活動の主な成績

○ソフトテニス部

第3回全日本高等学校選抜大会
ソフトテニス競技長崎県予選会
男子の部 第2位



○弓道部

第18回九州高等学校弓道新人選手権大会
男子個人 第5位 渡辺 雄也
女子個人 第3位 大重 沙世



長崎県高等学校新人体育大会

○体操部

女子団体 第3位

○剣道部

男子団体 準優勝
男子個人 第3位 永谷 優樹
女子団体 優勝
女子個人 準優勝 増田 雅
第3位 小嶺 華



○レスリング部

団体戦 優勝 優勝
個人戦 優勝 優勝
50kg級 伊藤 優
60kg級 原田 駿
66kg級 岩永 和樹
74kg級 松坂 誠應
84kg級 佐藤 聖翔
74kg級 永尾 貴幸
96kg級 上田 大翔
120kg級 内田 匠
第3位 55kg級 松本 郁朗



○その他

第14回長崎新聞英語弁論大会
努力賞 高原 恵美



創立110周年記念式典、記念演奏会、記念祝賀会等に出席された同窓生や保護者、教育関係の方からお誉めの言葉をたくさんいただきました。特に「凛々しい」という言葉を多くの方から聞きました。一部を紹介し



- 島高生の凛々しい姿を見て、自分が「島高」の卒業生であることを誇りに思った。(70歳代男性)
- 場をわかまえ、その場に相応しい態度がとれる島高生はすばらしい。(60歳代女性)
- 格調高い記念式典、記念演奏会だった。合唱部の歌には感動した。(50歳代女性)
- 島高は、島高生はやっぱりちがう。後輩たちを誇りに思う。(30歳代男性)